令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　61

事務事業名称		京阪本線連続立体交差事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　都市整備部		課:　連続立体交差課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	—		
	事業期間	事業開始：　2005(H17)年度　～　事業終了予定：　2028(R10)年度						
	根拠法令等	都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	踏切を除却することで交通渋滞や踏切事故を抜本的に解消するとともに、鉄道により分断されていた市街地の一体化や新たに創出される高架下の有効利用により、地域が大きく発展している状態を目指す。						
	対象者(受益者)	踏切による交通渋滞や踏切事故により影響を受ける利用者及び鉄道で分断されている沿線市街地の住民						
	現状・課題	踏切による交通渋滞や踏切事故発生の懸念及び平面鉄道による沿線市街地の分断						
	事業の概要	踏切の除却に伴う交通渋滞の解消と踏切事故の防止等都市交通の円滑化、平面鉄道で分断化されていた市街地の一体化、新たに創出される高架下の有効利用などを目的に連続立体交差事業を行う。 連続立体交差事業を推進するために、大阪府、寝屋川市、京阪電気鉄道(株)と連携を図り、迅速で効率的な用地取得に取組む。						
	年間の主な事務	・用地取得 ・埋蔵文化財調査、家屋調査 ・道路設計、道路整備工事 ・支障物件移設等調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	6.56人	8.00人	—	—
再任用	0.52人	0.00人	—	—
任期付職員	1.00人	1.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	58,210	71,009	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		58,210	71,009	—	—		
	物件費計		1,135,501	499,428	—	—	618,168	80.8%
歳出計			1,193,711	570,437	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		554,891	122,235	—	—	265,977	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		462,700	341,800	—	—	341,900	
	その他		400	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			1,017,991	464,035	—	—	607,877	
一般財源(物件費充当分のみ)			117,510	35,393	—	—	10,291	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市域における連続立体交差事業用地を取得する。	㎡	1,078 ㎡	0 ㎡	— ㎡	— ㎡

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	連続立体交差事業用地取得業務が進捗する。
指標	連続立体交差事業用地取得率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	99	100	100	100	%
実績	99	99	—	—	%
算出方法	取得累計面積／取得総面積 × 100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

事業用地取得完了→鉄道高架化工事の進捗
※鉄道高架化は令和10年度以降になる見込みであり、仮線切替えの目途がたった段階で事業認可変更を行い、事業期間、事業費等を見直す予定。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	収用裁決申請手続きをしていた難航案件等、粘り強い交渉の結果、任意での契約を行い、概ね予定通りの取得率に達することができた。
R7年度	令和7年度はアウトプット指標である用地取得率の変化はないものの、用地取得の早期完了を目指して、土地収用法の手続における補償業務委託等を実施するなどの取り組みを進めた。また、関連移設を含む関係機関との調整協議及び手続を進めるとともに、埋蔵文化財調査業務委託、道路設計業務委託を実施した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、事業用地の取得完了に努め、鉄道高架化工事に関連する文化財調査などをさらに進めるとともに、工事の支障となる占用物件などの移設に関する調整及び施工協議などを計画的かつ効率的に取り組みを進めます。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　945

事務事業名称		連続立体交差課運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　都市整備部		課:　連続立体交差課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2022(R4)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営が円滑に行われている。						
	対象者(受益者)	連続立体交差課職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	課の運営業務						
	年間の主な事務	課の運営及び予算等の事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.61人	1.00人	—	—
再任用	0.02人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.30人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	4,796	8,209	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	652	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	5,448	8,209	—	—		
歳出 物件費計	770	804	—	—	2,295	35.0%
歳出計	6,218	9,013	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	770	804	—	—	2,295	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	―					
指標	―					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					―
	実績					―
	算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	―					
指標	―					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					―
	実績					―
	算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	育児休業等により、不足した人員の中で課の運営事務を行っていたが、下半期は会計年度任用職員（短期任用）を採用し、課の運営事務を円滑に進めることができた。
R7年度	庁内外への照会・依頼・回答処理事務及び予算管理事務など、課の運営事務を円滑に進めることができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、課の運営事務が円滑に進むように取り組む。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―